



# NMVOOC分野における 排出量の算定方法について（案）

令和3年度環境省温室効果ガス排出量算定方法検討会（第1回）  
令和4年2月2日（水）



- NM VOC分野における排出量については、今年度は算定方法の変更はない。

- 2022年に提出する温室効果ガスインベントリにおける工業プロセス及び製品の使用（IPPU）分野からの排出量（2019年度排出量を例とした試算値）は、以下のとおり。
- NMVOC燃烧由来CO<sub>2</sub>排出量については、今年度は算定方法の変更はない。なお、以下の排出量は、2021年提出温室効果ガスインベントリ作成時に使用された活動量等を据え置いた現時点での試算値であり、今後変わり得ることに留意する必要がある。

排出量算定結果（2019年度排出量を例とした試算値）

（単位：千tCO<sub>2</sub> eq.）

排出源区分	合計	CO <sub>2</sub>	CH <sub>4</sub>	N <sub>2</sub> O
2. 工業プロセス及び製品の使用	46,139	45,174	41	925
A. 鉱物産業	32,606	32,606		
B. 化学産業	4,923	4,348	25	551
C. 金属産業	5,531	5,515	16	
D. 燃料からの非エネルギー製品及び溶剤の使用	2,605	2,605	NE	NE
G. その他の製品の製造と使用	374			374
H. その他	100	100	NO	NO

※エネルギー・工業プロセス分科会での検討結果については未反映

凡例  : CRF上でデータの記入が必須でない欄

【注釈記号】

NE: Not Estimated（排出量が重要でない（insignificant））

NO: Not Occuring（温室効果ガスの排出・吸収に結びつく活動が存在しない。）

- 2022年に提出する温室効果ガスインベントリにおける間接CO<sub>2</sub>排出量（2019年度排出量を例とした試算値）は、以下のとおり。
- 間接CO<sub>2</sub>排出量については、今年度は算定方法の変更はない。なお、以下の排出量は、2021年提出温室効果ガスインベントリ作成時に使用された活動量等を据え置いた現時点での試算値であり、今後変わりうることに留意する必要がある。

排出量算定方法改訂結果（2019年度排出量を例とした試算値）

（単位：千tCO<sub>2</sub> eq.）

排出源区分	合計	CH <sub>4</sub> 由来	CO由来	NM VOC由来
合計	2,058	84	NE, NA, IE	1,975
1.A. 燃料の燃焼	IE	IE	IE	IE
1.B. 燃料からの漏出	444	79	NE, NO	365
2. 工業プロセス及び製品の使用分野	1,614	5	NE, IE	1,609
3. 農業分野	NE, NA, NO	NA	NA	NE, NO
4. 土地利用、土地利用変化及び林業分野	NE, NA, NO, IE	NA	NA	NE, NA, NO, IE
5. 廃棄物分野	IE	IE	IE	IE
6. その他	NA, NO	NO	NA	NO

【注釈記号】

NA: Not Applicable（関連する活動は存在するが、特定の温室効果ガスの排出・吸収が原理的に起こらない。）

NO: Not Occuring（温室効果ガスの排出・吸収に結びつく活動が存在しない。）

NE: Not Estimated（未推計・排出量が重要でない（insignificant））

IE: Included Elsewhere（他の排出源の排出量に含まれて報告されている。）

- 2022年に提出する温室効果ガスインベントリにおける蒸発起源NM VOC排出量（2019年度排出量を例とした試算値）は、以下のとおり。
- 蒸発起源NM VOC排出量については、今年度は算定方法の変更はない。なお、以下の排出量は、2021年提出温室効果ガスインベントリ作成時に使用された活動量等を据え置いた現時点での試算値であり、今後変わり得ることに留意する必要がある。

排出量算定方法改訂結果（2019年度排出量を例とした試算値）

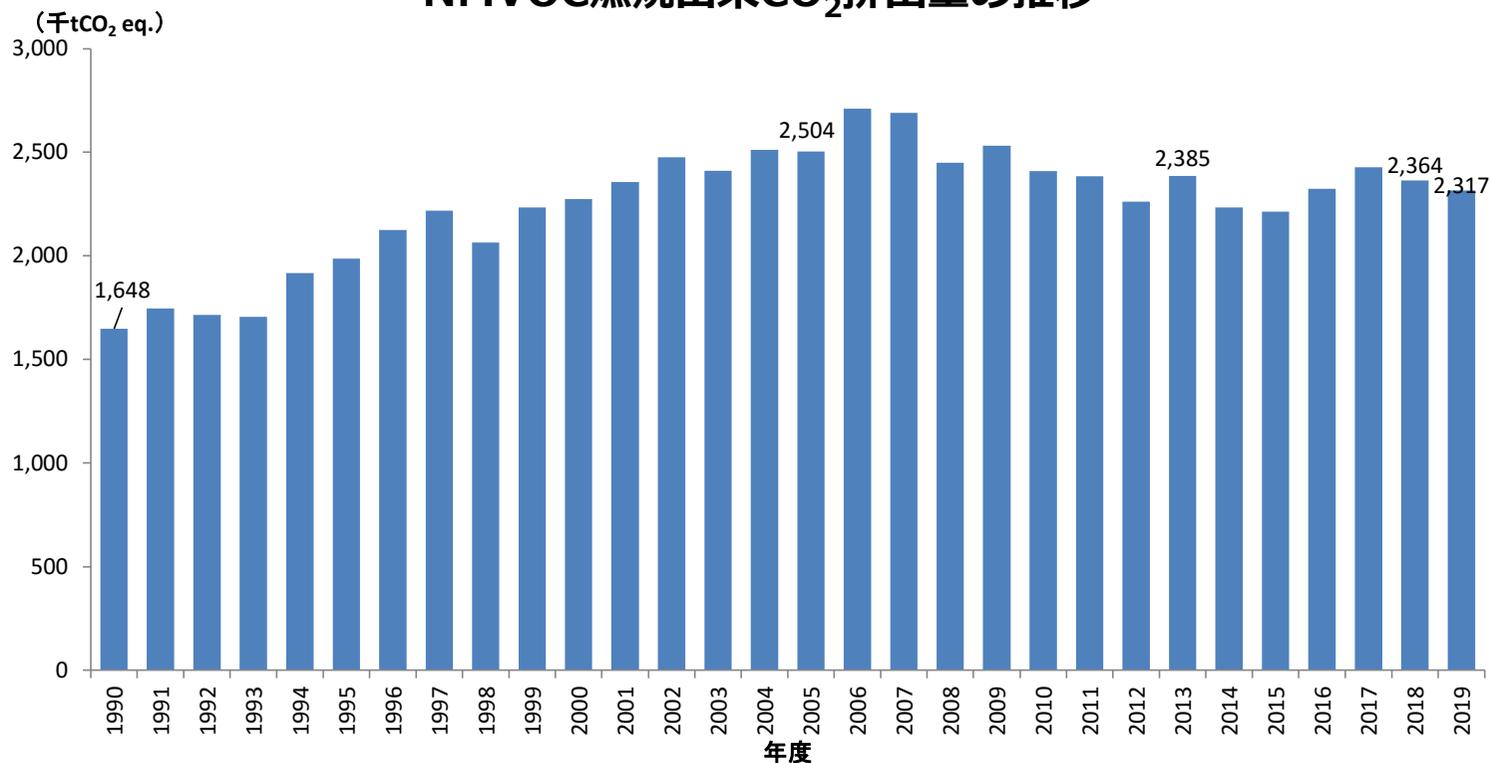
（単位：tNM VOC）

排出源	NM VOC
1. エネルギー分野	161,968
A. 燃料の燃焼	25,483
3. 運輸	25,483
自動車からの燃料蒸発ガス	21,084
二輪車からの燃料蒸発ガス	4,400
B. 燃料からの漏出	136,485
2. 石油及び天然ガス	136,485
2. 工業プロセス及び製品の使用分野	601,281
D. 燃料からの非エネルギー製品及び溶剤の使用	583,729
3. 溶剤の使用	583,729
塗料の使用	232,277
金属洗浄	37,319
印刷用溶剤使用	35,295
溶剤型接着剤の使用	43,139
化学品の製造	44,941
その他	190,758
H. その他	17,552
2. 食料・飲料産業	17,552
食料品等発酵	17,552

# NM VOC 燃烧由来CO<sub>2</sub> 排出量のトレンド

- 2022年に提出する温室効果ガスインベントリにおける2019年度のNM VOC 燃烧由来CO<sub>2</sub> 排出量（試算値）は約230万tCO<sub>2</sub> eq.で、1990年度から約70万tCO<sub>2</sub> eq.増（40.6%増）、2005年度から約20万tCO<sub>2</sub> eq.減（7.5%減）、2013年度から約7万tCO<sub>2</sub> eq.減（2.9%減）、前年度から約5万tCO<sub>2</sub> eq.減（2.0%減）となる。1990年度以降、排出量は増加傾向であったが、2000年代半ば以降は増減を繰り返している。
- 当該排出量は、2021年提出温室効果ガスインベントリ作成時に使用された活動量等を据え置いた現時点での試算値であり、今後変わり得ることに留意する必要がある。なお、NM VOC 燃烧由来CO<sub>2</sub> 排出量については、今年度は算定方法の変更はない。

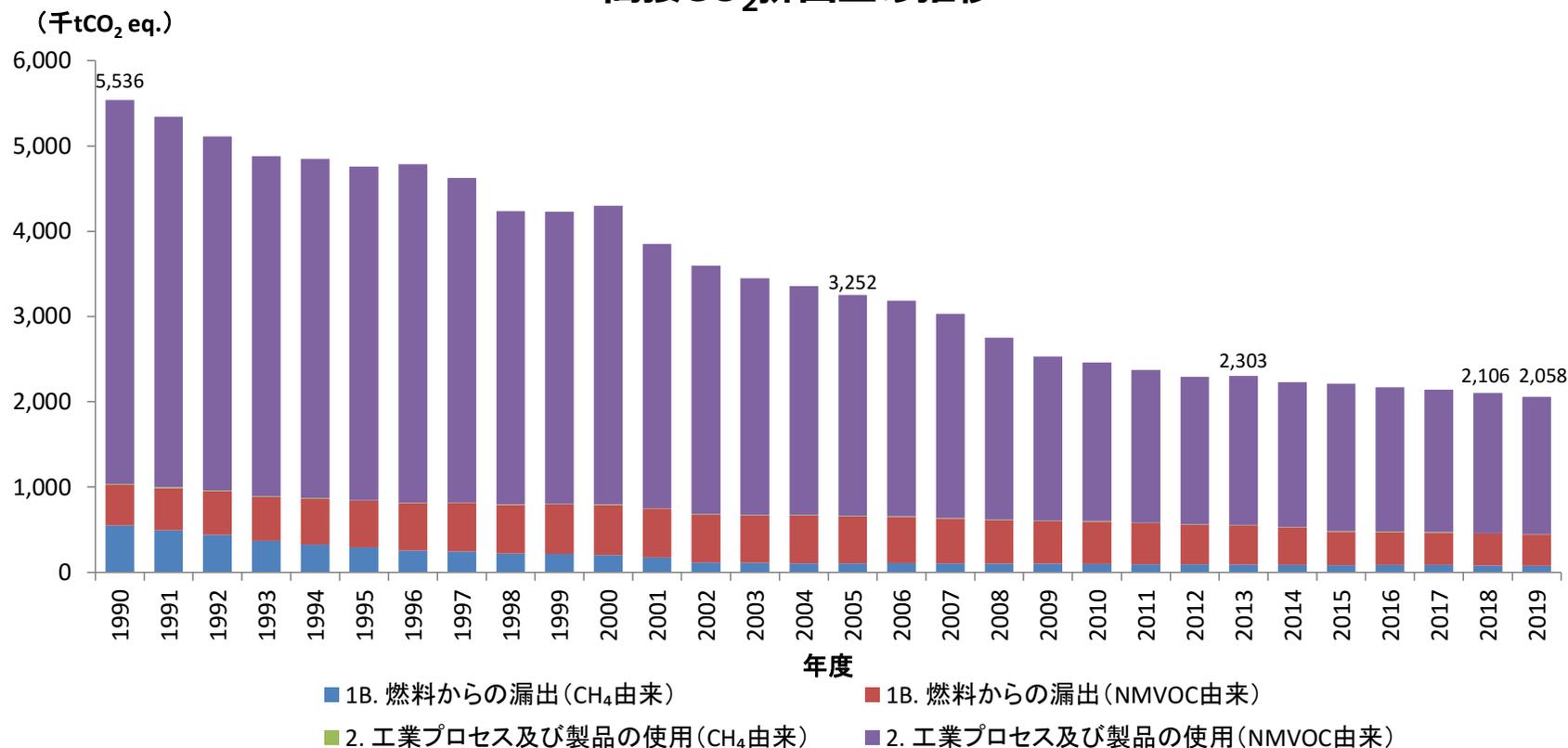
NM VOC 燃烧由来CO<sub>2</sub> 排出量の推移



# 間接CO<sub>2</sub>排出量のトレンド

- 2022年に提出する温室効果ガスインベントリにおける2019年度の間接CO<sub>2</sub>排出量（試算値）は約210万tCO<sub>2</sub> eq.で、1990年度から約350万tCO<sub>2</sub> eq.減（62.8%減）、2005年度から約120万tCO<sub>2</sub> eq.減（36.7%減）、2013年度から約20万tCO<sub>2</sub> eq.減（10.6%減）、前年度から約5万tCO<sub>2</sub> eq.減（2.3%減）となる。1990年度以降減少傾向であるが、近年は減少が緩やかになってきている。
- 当該排出量は、2021年提出温室効果ガスインベントリ作成時に使用された活動量等を据え置いた現時点での試算値であり、今後変わり得ることに留意する必要がある。なお、間接CO<sub>2</sub>排出量については、今年度は算定方法の変更はない。

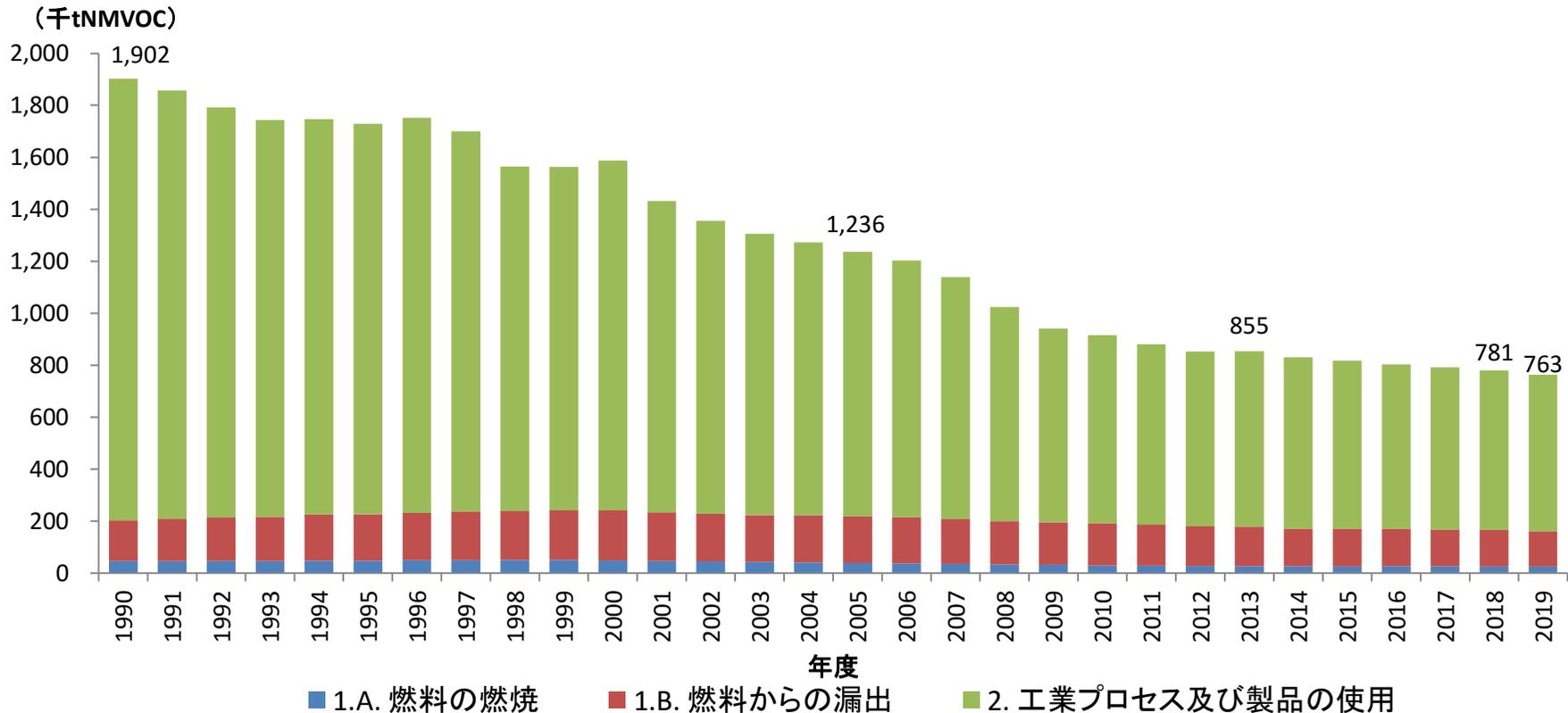
### 間接CO<sub>2</sub>排出量の推移



# 蒸発起源NMVOc排出量のトレンド

- 2022年に提出する温室効果ガスインベントリにおける2019年度の蒸発起源NMVOc排出量（試算値）は約80万tで、1990年度から約110万t減（59.9%減）、2005年度から約50万t減（38.3%減）、2013年度から約9万t減（10.7%減）、前年度から約2万t減（2.3%減）となる。1990年度以降減少傾向であるが、近年は減少が緩やかになってきている。
- 当該排出量は、2021年提出温室効果ガスインベントリ作成時に使用された活動量等を据え置いた現時点での試算値であり、今後変わり得ることに留意する必要がある。なお、蒸発起源NMVOc排出量については、今年度は算定方法の変更はない。

蒸発起源NMVOc排出量の推移



- 次年度以降は、拡張VOC排出インベントリとして新たに計上された排出源で、1990年度以降のいずれかの時点においてCO<sub>2</sub>換算で3,000tCO<sub>2</sub> eq.以上となることが見込まれる未推計排出源のうち、検討対象外となっている「筆記用具」、「たばこ」からの排出量の追加計上について引き続き検討を行う。